

不動産学の魅力

明海大学 不動産学部

第31回



賀本 恒誠
不動産学部3年

道路や鉄道、飛行場やダム建設のように、環境に大きな影響を与える可能性のある大規模な開発事業では、環境アセスメントが不可欠である。

環境アセスメント（環境影響評価）は、環境に著しい影響を及ぼす可能性のある事業が行われる際、その事業の環境への影響を事前に調査、予測、評価し、環境保全の対策を検討することを義務付ける制度である。環境にやさしい再生可能エネルギーである風力発電所の設置の際にも環境アセスメントが実施される。

風力発電所建設と環境アセスメント

道路や鉄道、飛行場やダム建設のよう、環境に大きな影響を与える可能性のある大規模な開発事業では、環境アセスメントが不可欠である。通り道となる山間部などである。この

しかしデメリットもある。大規模な風力発電所の建設には高額の初期投資が必要であることや、風の強さや安定性が不確定で、発電効率にはらつきが生じることである。また、風車の回転音が騒音問題を引き起こすことや景観への影響により地域住民から反対運動が起こることもある。更に、風車が野生動物に与える影響、特に鳥類との衝突(バードストライク)

4件のうち、542件が風力発電所であった。環境アセスメントが風力発電所の建設や運営における環境負荷を減少させ、地域住民や生態系への負荷を最小限に抑え、持続可能な開発を進めるための一歩となること。風力発電の普及が期待される。以上を踏まえ、風力発電所は今後も増加していく必要があると考えられるが、地域の景観や近隣住民の生活環境を考慮し、適切な環境アセスメントを実施した上で増やすべきだと考える。

適切な環境アセスメントの実施を

うした場所は風力発電の効率が高まり、エネルギー収益の向上にも寄与する。騒音発生や景観を損なうとしても周囲に人がいなければ損害発生リスクも低い。

更に、風力発電には長期的に見ると経済的な利点もある。一度設置すれば比較的低コストで電力を供給できる。

も問題である。このように、風力発電にはメリットも大きいデメリットも存在する。したがって、設置されれば環境にやさしい施設とはいえず、環境アセスメントが不可欠であり、開発前に環境への影響を評価し、適切な対策を講じることが求められる。実際、99年から24年3月までに行われた環境アセスメント85

【教員コメント】風力発電はクリーンエネルギーとして注目されるが、アセス対象事業は事業開始前に方法書、準備書、評価書など作成して審査を受けねばならず、大変な手間と時間が掛かる。20年余間のアセスの6割以上が風力発電所で、普及を妨げる要因になっていないか検討すべきと思われる。(浜島 裕美)

風力発電のメリットは、風を利用するため温室効果ガスを排出せず、環境負荷が少ない点と、時間帯に関係なく発電できる点にある。

更に、風力発電には長期的に見ると経済的な利点もある。一度設置すれば比較的低コストで電力を供給できる。

も問題である。このように、風力発電にはメリットも大きいデメリットも存在する。したがって、設置されれば環境にやさしい施設とはいえず、環境アセスメントが不可欠であり、開発前に環境への影響を評価し、適切な対策を講じることが求められる。実際、99年から24年3月までに行われた環境アセスメント85

【教員コメント】風力発電はクリーンエネルギーとして注目されるが、アセス対象事業は事業開始前に方法書、準備書、評価書など作成して審査を受けねばならず、大変な手間と時間が掛かる。20年余間のアセスの6割以上が風力発電所で、普及を妨げる要因になっていないか検討すべきと思われる。(浜島 裕美)